商店街地域未来プロジェクトの概要：No.1

# 商店街名：柴田商店街振興組合（名古屋市）

キャッチコピー

**地域の人と人を繋げる商店街**

## ◎商店街の将来ビジョン（目指す未来の商店街の姿）

◇地域の状況（2025年度頃）

柴田商店街近隣学区では、人口は自然減少程度ではあるが、65歳以上の比率が29.6%（市内24.2%）、外国人比率7.1%（市3.6%）に至っては約２倍、町内会加入率66.2%（市69.7%）で近所付き合いも希薄になりつつある状況である。
また、商店街加盟店店主の高齢化が進み、事業継承が出来ない個店が廃業となることが懸念される。

◇商店街の姿

商店街加盟店の直接的な売上アップは難しいが、地域の「人」と「人」を繋ぐ事で、店主の顔が見える関係性を改めて構築する。
さらに地元の大学との協働で、空き店舗を新しいプラットホームと位置づけて、学生や地域の子ども達が行き交う活気ある街を目指す。
相乗効果として既存加盟店のやる気に繋がると思われる。

◇地域の状況（2030年度頃以降）

65歳以上や外国人比率は増々増加していると思われる。15歳未満も人口は減少して、近隣3小学校の統合が行われる予定があり、各町内の子ども会廃止が増えることが予想される。
商店街既存加盟店舗数はさらに減少し振興組合役員は全て現在とは別のメンバーとなる。
空き店舗やコインパーキングがさらに増えると予想。

◇商店街の姿

商店街エリア全体ではなく、コミュニティ機能を持つ279ステーション+シバテーブル+シバテラスの連携が進み、同エリアの空き店舗に新たな店舗を誘致する「シバタウン」構想が軌道に乗り活気あるシバエリアが誕生する。
毎週末には、イベントが開催され地元以外の来街者にも多数足を運んでもらい、笑顔が絶えない商店街となっている。

## ◎未来の商店街の姿に至る方法（プロセス）

【構想計画期間：2022年度～2025年度】

現在進行している近隣大学との連携拠点「シバテラス」プロジェクトの先に思い描く「シバタウン」構想を進めるにあたり、先ずは仲間作りとして、積極的に商店街外部との関係構築を進める。現在ある279ステーション+シバテーブルでのイベントを通し、「子ども、子育て世代、大学生、高齢者」等の参画者パワーをミックスすることで各世代の人と人とを繋ぐ商店街を目指す。

## ◎実行体制

(1）未来プロジェクトチーム
構成：若手商店主3名を含む計7名

(2）地域プラットフォーム
名称：未来を２７９（ツナグ）
目的：柴田商店街の将来の姿を描くため、地域の関係者の商店街に対するニーズを汲み上げ、実現に向けて意見を伺うこと。
参画：商店主、市町村、地域住民、学校

## ◎想定・把握している「商店街に対する地域ニーズ」

地域プラットフォームでのヒヤリングやアンケートから、様々な年代の地域住民との繋がり拠点や子ども、高齢者の安全安心に配慮したまちづくりを期待されている。
また、外国人比率が高いエリアであることから、それらの方々との交流にも配慮して欲しいとの意見もあった。さらに、防災について関心が高いことが分かった。
未来プロジェクトでは、これらの課題を商店街だけでなく地域の課題として検討する必要がある。